

平成30年度 登別市下水道事業報告書

1 概 況

(1) 総括事項

本年度は、収入面において、平成30年1月1日に実施した使用料改定により、前年度に比べて使用料収入が大きく増加しました。

しかしながら、資本費の高止まりや企業債元金償還金の増嵩、年間有収水量の減少などを考慮すると、引き続き経営状況を注視していく必要があります。

支出面においては、下水道事業経営戦略を基に、将来に亘って安定的に下水道サービスを提供するため、事業実施において維持管理経費等の縮減に努めることはもちろん、ライフサイクルコストを低減する観点から、施設の効率的な維持管理に資する施設整備事業を重点的に実施するなど、経営の健全化に向けた取組を行いました。

また、下水道事業の公共的使命を果たすため、汚水の安定的処理やこれによる公共水域の保全、浸水防除など、汚水管渠の改築更新や雨水管渠の新設などを着実に実施しました。

ア 業務状況

年間有収水量は、公共下水道事業で前年度に比べ105,694 m³減少の3,092,957 m³、個別排水処理施設事業で前年度に比べ1,909 m³増加の16,624 m³となりました。

また、接続戸数（浄化槽設置基数）は、公共下水道事業で前年度に比べ177戸増加の20,835戸、個別排水処理施設事業で前年度に比べ3基増加の82基となりました。

イ 建設改良事業

管渠建設費においては、常盤町地区の雨水浸水対策として、雨水管渠新設工事を実施したほか、汚水管渠については、既設管のたるみが著しい常盤町地区の汚水管渠改築更新工事などを行いました。

また、処理場建設費においては、主要設備機器の老朽化が進んでいることから、下水道機能の停止を未然に防止するとともに、ライフサイクルコストの最小化を図るため、登別市下水道長寿命化計画に基づき、水処理設備の更新工事などを実施しました。

ウ 施設の現況

本年度末における施設の現況は、次のとおりです。

- ・ 終末処理場 若山浄化センター
(施設構成) ポンプ棟、オキシデーションディッチ、最終沈澱池
塩素混和池、污泥処理棟、送風機棟
- ・ ポンプ場 3カ所 (若草ポンプ場、幌別ポンプ場、登別ポンプ場)
- ・ 管渠 汚水管 延長 263,373.34m
雨水管 延長 3,710.77m

エ 財政状況

(収益的収支)

収入は、営業収益7億2,890万6,575円(うち使用料収入6億5,023万4,200円)、営業外収益11億5,229万385円の合計18億8,119万6,960円となりました。

これに対し支出は、営業費用14億5,760万5,703円、営業外費用3億678万7,536円、特別損失20万5,157円の合計17億6,459万8,396円となり、収支差引による当期純利益は1億1,659万8,564円となりました。

(資本的収支)

収入は、企業債収入8億6,990万円、負担金及び分担金収入3,734万4,446円、補助金収入3億748万2,350円の合計12億1,472万6,796円となりました。

これに対し支出は、建設改良費5億6,284万4,753円、企業債償還金12億2,386万9,390円の合計17億8,671万4,143円となり、収支差引による不足額は、5億7,198万7,347円となりました。

この不足額につきましては、損益勘定留保資金などで補てんしました。